

よしだ けんいちろう  
吉田 謙一郎



学校法人獨協学園理事長

寺野彰前理事長の任期満了に伴い、8月2日付で理事長（獨協医科大学学長兼務）に就任した。

吉田新理事長は1946年東京都生まれ。医学博士。1971年東京医科歯科大学医学部卒業、1981年東京医科歯科大学講師、1986年埼玉医科大学総合医療センターを経て、1995年獨協医科大学泌尿器科学教授、2009年同大学副学長、2018年同大学学長に就任し現職。専門分野は泌尿器科学。論文、著書

多数。国際観光医療学会理事、日本泌尿器科学会名誉会員ほかを務める。

吉田新理事長の持論は、学園を取巻く環境は教育および医療ともに厳しさを増す中で、学校運営および病院運営を行う教育機関として一層の輝きを放つために、学園関係者が睿智を結集し、さらなる教育の内容、方法および教育環境などの充実を図り、その成果を社会に発信し、さらにPDCAサイクルにより教育への高い評価を得ていくことが第一とのこと。時代のニーズおよび時代を先取りした人材育成により、今後も社会の厚い信頼を得て、また大学の研究成果、例えば医科大学では先端医療の取り組みを強化し、未来の医学への投資、地域医療への貢献などを世界に発信して、未来を見つめる教育機関としての使命を果たすべく邁進していくとしている。

趣味はゴルフと早朝1時間のウォーキング。

ほたて かずお  
保立 和夫



豊田工業大学学長

榊裕之前学長の後任として、9月1日付で保立和夫副学長・教授が第7代学長に就任した。任期は3年。

保立新学長は1951年生まれ。1979年東京大学大学院工学系研究科電子工学専攻博士課程修了（博士号取得）。同年東京大学宇宙航空研究所専任講師、1993年同教授。2008・09年度に東京大学大学院工学系研究科長・工学部長、2011～13年度に東京大学産学連携本部長を経て、2015・16年度に東京

大学理事・副学長。2017年3月に定年退職し、4月に豊田工業大学副学長・教授に就任した。

主たる研究分野はシステムフォトリクス。光波ならびにフォトリクスデバイスの物理を巧みに操り、斬新な機能を具備するフォトリクスシステムの創成を展開。黎明期から研究を牽引した光ファイバジャイロは人工衛星などに実用化され、光ファイバに沿う歪を分布計測する独自技術により構造物の健全性診断を可能にする「光ファイバ神経網技術」も提唱・実現している。

新学長は、入学定員90名と極小規模な大学を、「山椒は小粒でもピリリと辛い」存在として強調したいと望んでいる。深い理解を追究する学習態度と独創性を追究する研究態度に共通する「論理的思考力」を醸成する教育環境を、教職員と学生の意思疎通を高めつつ実現したいと考えている。

田中 愛治  
たなか あいじ



早稲田大学 総長

鎌田薫前総長の任期満了に伴い、2018年11月5日付で田中愛治政治経済学術院教授が総長に就任した。田中新総長は1951年東京都生まれ。1975年早稲田大学政治経済学部政治学科を卒業後、米国に留学。The Ohio State University 大学院博士課程を修了し、1985年にPh.D. (政治学) を取得した。帰国後は、東洋英和女学院大学、青山学院大学などを経て、1998年に早稲田大学政治経済学部教授に

就任し、早稲田大学教務部長、理事(教務部門総括)、グローバルエデュケーションセンター所長を歴任。その間、日本政治学会理事および日本選挙学会理事・理事長のほか、International Political Science Association (IPSA) の President (会長) を日本人として2人目で29年ぶりに務めた(2014~16年)。

専門は政治意識論、投票行動論で、無党派層研究のわが国の第一人者である。主な共著・編著に『熟議の効用 熟慮の効果』(勁草書房、2018年)、『世論調査の新たな地平』(勁草書房、2013年)、『政治学』(有斐閣、2003年) などがある。IPSAの理事会に9年間参加し、多くの海外大学を訪問、文部科学省中央教育審議会、日本学術振興会委員会などの経験から、鎌田薫前総長の掲げた WASEDA VISION 150 を力強く継承し、より具体的な道筋を示して改革を促進しようとしている。

令和2年度私立大学関係政府予算  
および税制改正要望活動

11月6日、日本私立大学団体連合会は、「私立大学の振興に関する協議会」を拡大し、主要国会議員と意見交換を行いました。長谷山会長から、私立大学経常費補助における中間層の支援や私立大学の研究活動に対する支援の説明があり、税制改正においては、個人による寄附の裾野を広げるため、税額控除の優遇措置を要望しました。

議員からは、格差の問題、個人に着目した公的支援のあり方や税と教育の一体改革など、活発な意見が出されました。また、現在、長谷山会長をはじめとする役員執行部において、税制改正(寄附の税額控除の控除率を45%に引き上げ)の要望活動を精力的に行っています。



私立大学の振興に関する協議会の様子

**鳥巢義文** 南山大学長、人文学部教授。'90オー  
ストリア・ウィーン大学カトリック神学部博  
士課程修了。神学博士号取得。南山短期大学  
長を経て、'17から現職。

**永尾教昭** 天理大学学長、天理大学外国語学  
部卒。天理教ヨーロッパ出張所長、天理教海  
外部次長、道友社長、天理大学常務理事など  
を経て、'16から現職。著書『在欧25年』など。

**小室和子** 明治学院大学総合企画室広報課  
課長。明治学院大学社会学部卒。

**長野留三子** 大正大学総合政策部広報課課長。  
大正大学文学部史学科卒。'04同大学入局。国  
際センター、財務課、人事課、入試課などを  
経て、'186月から現職。

**調麻佐志** 東京工業大学リベラルアーツ研究  
教育院教授。'95東京大学大学院総合文化研究  
科広域科学専攻博士課程単位取得満期退学。  
博士(学術)。信州大学などを経て、'16から現職。

**花岡正樹** 株式会社Hovaco代表。ウエブマガジ  
ン「ほとんど0円大学」編集長。プロデューサー、  
編集者として、大学の広報戦略などに携わる。著  
書『50歳からの大学案内関西編(びあ)など多数。

**山田健太** 専修大学文学部(ジャーナリズム  
学科)教授、学科長。'84青山学院大学卒。専  
門は言論法、ジャーナリズム研究。近著『沖  
繩報道』見張塔からずっと』『放送法と権力』。

**秋和真澄** 日本体育大学特別研究員。'16早稲  
田大学院スポーツ科学研究科修士課程修  
了。修士(スポーツ科学)。'16から現職。

**深澤晶久** 実践女子大学文学部教授、キャリ  
ア教育担当。'80慶應義塾大学法学部卒。株式  
会社資生堂を経て、'14実践女子大学特任教授。  
東京2020組織委員会文化教育委員。

**朴ジョンヨン** 神田外語大学体育・スポーツ  
センター准教授、ボランティアアセンター・ス  
ポーツ通訳ボランティア推進室長。共著『日  
本の英語教育の今、そして、これから』など。

**根津公一** 学校法人根津育英会武蔵学園理事  
長。'73慶應義塾大学商学部卒。'82東武百貨店  
取締役、'99社長、'15名誉会長。'02から根津美  
術館理事長、'06から根津育英会武蔵学園理事  
長を務める。

**笹山文徳** 名古屋学院大学法学部専任講師。'18  
同志社大学院法学研究科博士後期課程修  
了。博士(法学)。'18から現職。専門は刑事訴  
訟法・刑事政策。

**鈴木眞理** 青山学院大学コミュニケーション人間科  
学部長、教授。東京大学大学院博士課程中退。  
東京大学などを経て、'19から現職。社会教育学・  
生涯学習論専攻。博士(学術)。

**岩谷絢子** 立命館大学学生部BKC学生オフィ  
ス職員。'11学校法人立命館入職、'19から現職。

**畑中敏伸** 東邦大学理学部教授。筑波大学大  
学院博士課程教育学研究科単位取得退学。修  
士(教育学)。'04東邦大学講師、'08准教授、'19  
教授。共著に『理科教育基礎論研究』など。

〈お断り〉本稿は、お書きいただいた資料から、できる限り統一して掲載いたしました。

**岡田みどり** 東京女子医科大学医学部教授。79  
東京薬科大学大学院薬学研究科博士前期課程  
修了。博士（薬学）。10から現職。次世代育成  
プログラムを担当。

**阿部賀寿男** 仙台市出身、東北学院大学経済  
学部卒。'35（昭和10）年創業の阿部蒲鉾店の  
3代目として生まれ、'07（平成19）年に社長  
に就任。常に笑みを絶やさないソフトな物腰  
は相手に安心と信頼を与え、穏やかな中にも  
芯の強いリーダーシップを感じさせる。

**川島 葵** フリーアナウンサー。上智大学文  
学部卒。東海ラジオ入社。12からフリー。東  
海ラジオ「TOKYO UPSIDE STATION」  
「川島葵の東京からも歌謡曲」などに出演。

## 『大学時報』全文検索システム導入と バックナンバーのアーカイブ化の推進

私大連ウェブサイト内の『大学時報』ペー  
ジでは、デジタル版（PDFファイル）を  
公開するとともに、「全文検索システム」を  
導入しています。また、バックナンバーは  
2019年11月現在、第301号（200  
5年3月号）から全文公開中です。

<https://daigakujiyou.shidaren.or.jp/>



私大連ウェブサイトの『大学時報』ページ

## 私大連公式Facebookページ

私大連公式「Facebook」を開設しています。『大学時報』発行のお知らせは  
もとより、各号発行前に、座談会の開催報告や、クローズアップ・インタ  
ビューの担当インタビューによる記事投稿を行っています。ぜひご覧く  
ださい。

<https://www.facebook.com/shidairen/>

会長の動き 2019年 9月・10月

● 9月10日(火)  
第4回常務理事会、第5回理事会に出席

● 9月19日(木)  
長谷山会長および村田・曄道両副会長が文部科学省高等教育局高等教育企画課と意見交換

● 9月26日(木)  
全私学連合で新文部科学大臣などを表敬訪問

新しく就任された萩生田文部科学大臣をはじめ、亀岡副大臣、上野副大臣に、長谷山会長が全私学連合を代表して表敬訪問しました。



萩生田文部科学大臣表敬訪問の様子

今般導入される高等教育の修学支援新制度に関して、学生から見れば国立私立の大学間に支援の差があるのはおかしなことであるなど、私立大学への理解を求めました。

● 10月1日(火)  
第5回常務理事会に出席

● 10月3日(木)

● 10月4日(金)  
日本大学記念式典に出席

● 10月15日(火)  
第6回常務理事会、第6回理事会に出席

● 10月21日(月)  
財務大臣に私立大学の耐震化災害などの要望

長谷山会長は自民党の学校耐震化・施設整備等促進議員連盟と共に、私立大学の耐震化などへの支援を麻生財務大臣に要望しました。

また、財務大臣のほか、主要国会議員に、一般の災害に対する支援をはじめ、国私間に公費格差のある私立大学の建物施設に対する補助をお願いしました。  
● 10月28日(月)〜30日(水)  
主要国会議員に令和2年度税制改正を要望



甘利自民党税制調査会長に要望書を手交

令和元年秋の叙勲・褒章（連盟事業関係者）

瑞宝中綬章

- 飯野 正子（津田塾大学名誉教授）
- 小林 一章（東京女子大学名誉教授）
- 新関 輝夫（福岡大学名誉教授）
- 辰巳 浅嗣（阪南大学名誉教授）
- 寺中 平治（聖心女子大学名誉教授）
- 戸高 敏之（同志社大学名誉教授）
- 星野 英紀（天正大学名誉教授）

開催報告

● 9月2日(月)

「理事長会議」開催

「学校法人の自主性と私立大学の多様性確立のための取組方策——『私立大学ガバナンス・コード』を受けて」をテーマに開催。64法人から78名の参加がありました。



奇数月20日（年6回）刊行

●WEBサイトにて、全文無料公開中

※第301号（2005年3月発行）から  
詳細は

<https://daigakujihou.shidaiaren.or.jp/>



## 第385号（2019年3月発行）

【特集】

### 進化する『キャンパス』



【座談会】

私立大学におけるキャンパスのあり方

【インタビュー】

大迫 友紀氏（ガラス作家）

## 第386号（2019年5月発行）

【特集】

### LGBT等に関する理解醸成と大学の取り組み



【座談会】

大学における親子関係——教育、学生指導を保護者とともにどう展開するのか——

【インタビュー】

黒川 光博氏（虎屋17代当主・代表取締役社長）

## 第387号（2019年7月発行）

【特集】

### 学生寮を活用した国際交流、グローバル人材育成の取り組み



【座談会】

私立大学におけるインターンシップ推進を振り返る

【インタビュー】

武下 利一氏（トナミ運輸バドミントン部アシスタントコーチ）

## 第388号（2019年9月発行）

【特集】

### 留学生に対する学習面での日本語サポート



【座談会】

学生実態調査の活用と課題

【インタビュー】

少路 和伸氏（画家）

座談会 「変わりゆくオープンキャンパスのあり方」

特集 「学生食堂の課題と今後のあり方」

小特集 「100分授業のデザイン」

表紙・大学点描 金沢星稜大学 だいがくのたから 聖路加国際大学

クロースアップ・インタビュー：

「塚田 真希さん（東海大学体育学部講師、女子柔道部監督）」

## 編集後記

◆2019年10月、日本中がラグビーワールドカップに沸いた。ラグビーをほとんど知らなかった私も「にわかファン」になり、改めてスポーツの持つ力を実感している。

スポーツはあらゆるものをつなぐ可能性を秘めている。人と人、国と国、世代間や心をもつなぐ。2020年に開催される東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会はスポーツの祭典とも称され、ラグビーワールドカップ以上の熱狂を呼ぶであろう。

オリンピック競技大会の自国開催が決まっ  
てから、会場整備や運営ボランティアの募集  
など、さまざまな準備が進んでいるが、東京  
オリンピック・パラリンピック競技大会組織  
委員会と連携協定を結んでいる大学もまた、  
教育的観点から、開催に向けた人材育成に取  
り組んでいる。

今回は、東京2020オリンピック・パラ  
リンピック競技大会に向けて、積極的に教育  
活動に取り組む大学を特集した。どの取り組  
みも、学生の成長や地域を挙げての大会参画  
促進に貢献している。大学の社会貢献のあり

方を改めて実感するとともに、大会への期待  
を高めていただければ幸いである。

（広報・情報部門会議（大学時報）委員・  
大正大学総合政策部広報課長 長野 留三子）

◆日本代表チームの快進撃に、日本中が沸い  
たラグビーワールドカップ。準々決勝で南ア  
フリカに惜しくも敗れてしまったものの、強  
豪国に勝ち続けた姿には、涙を流さずにいら  
れなかった。

日本代表チームの主将を務めたリーチ・マ  
イケル氏は、「日本に恩返しをしたい」と心に  
決めていたそうだが、クロースアップ・イン  
タビューでお話を伺った阿部蒲鉾店の阿部社  
長も、少しでも仙台市民に貢献したいとおっ  
しゃっていた。その言葉通り、地元のスポー  
ツチームとスポンサー契約を結んだり、東日  
本大震災の際には各所へかまほこを配布する  
など、さまざまな形で地元へ貢献なさった。

阿部社長のインタビュー後、私生活でも練  
り製品を買う機会が増えた。これから  
冬本番を迎える季節柄、少しでも練り製品業  
界に貢献できたらと思う。

（日本私立大学連盟事務局 阿部 淑恵）



